

令和 2 年度個別学力検査等(前期日程)
「ドイツ語」 出題の意図

(1 枚/全 2 枚)

[I-①]

本問題に関し、文法面では、以下のような文法項目を受験者が十全に理解しているかどうかについてチェックすることが出題の意図である。(1)不定関係代名詞 was の用法、(2)受動態、(3)関係文、(4)過去完了形、(5)形容詞(副詞)の比較級の用法。

内容理解の面では、友情がしばしば偶然に左右されるものであり、学生たちがたまたま隣の席や同じ列に座ったというだけで、より親しい間柄になったというドイツ語文の内容を、受験者がどの程度読み取れるかを見ることが出題の意図である。

[I-②]

本問題に関し、文法面では、以下のような文法項目を受験者が十全に理解しているかどうかについてチェックすることが出題の意図である。(1)接続法第1式の認容の用法、(2)sein + zu 不定詞の用法、(3)形容詞(現在分詞)の名詞化。

内容理解の面では、物語がどの文化にも見いだされうるものであり、他人に伝える価値があると見なした出来事を語ることで、出来事は物語になるというドイツ語文の内容を、受験者がどの程度読み取れるかを見ることが出題の意図である。

[II]

題材となっているドイツ語文は、現代の教育と職業における男女の差について述べたものである。設問①は、文章の前半部分について、就業前の教育機関では男女差はほとんどないか、女性の方がむしろよい成果をおさめているのに対し、就職や就業後においては女性が男性より不利な状況に置かれているというドイツ語文の大意を理解し、それをまとめることができるかを問う問題である。設問②は、第2段落で述べられている内容について、女性は子どもができる仕事を辞めたり減らしたりして子どもの世話をするようになるというドイツ語文の論旨を把握できるかを問う問題である。

令和 2 年度個別学力検査等(前期日程)
「ドイツ語」 出題の意図

(2 枚/全 2 枚)

[Ⅲ]

以下の諸点について基本的な文法力が身につけているかどうかを問うことが本問の意図である：性・数・格に応じた人称代名詞の選択と語順。助動詞 mögen の人称変化と助動詞構文の作り方。von jm. Abschied nehmen と同義の表現としての sich von jm. verabschieden、値段を表す teuer sein と viel kosten の表現。wenn の省略による定動詞倒置の構文。疑問文の直接話法から間接話法への書き換え。

[Ⅳ]

本問は、まとまった考えを適切なドイツ語で表現できるかどうかを問う問題である。日本語を自分の使える表現に解釈する能力も試される。知っている単語を並べるだけでなく、文法規則にのっとって正しい構文で書く事が求められている。基本的かつ十分な語彙と文法項目に習熟し、それらを総合的に駆使しながらドイツ語で表現する練習を日頃行っているかどうかを確認することが本問の出題の意図である。